

教育協カウィークサイドイベント⑦ 開発コンサルタント主催
「生きる力を育む：仕事・社会につながるスキルを身につける～開発コンサル
タントの取り組み～」

1. 背景

スキル教育は、「社会で生きる力」を育む教育です。人々が健全に、幸せに生きていくためには、働きがいのある仕事（ディーセントワーク）を見つけ、自ら経済活動に参加する必要があります。

しかしながら、普通教育や技術教育・職業訓練（スキル教育）を受けておらず、仕事もない若者の割合は世界で約 23.5%に達します。とりわけ中央・南アジアの女子ではこの割合が 50%に近く（国連、2023¹）、SDG4.2（安価で高質な技術教育・職業訓練・高等教育への男女平等なアクセスの実現）、SDG4.4（雇用・起業可能なスキルを備えた若者の割合増）、ひいてはSDG8（働きがいも経済成長も）の達成が危ぶまれています。

また紛争発生・再発リスクの高い地域（危険影響地域、脆弱性の「ポケット」とも呼ばれる）では、若年層のレジリエンス強化および過激化予防のために、安定した生活を保障する取り組みが必要になります。紛争が起こる理由はガバナンスや宗教や治安問題など多岐にわたり、また外部からの介入が難しいものが少なくありません。その中で、若年・女性・脆弱層への生計向上・雇用促進は支援機関がアプローチ可能な取り組みであり、「強靱な社会の形成」のために、スキル教育は注目されています。

本セッションでは、開発コンサルタントが実施する若者が社会で生きる力を身につける支援として、南アジア・バングラデシュでの女子工科短期大学支援、および脆弱性のポケットであるサブ・サハラアフリカのサヘル地域で、市民参加・民間企業提案型でスキル教育に取り組む事例を、現地との中継を交えて紹介し、スキル教育が女子、および不安定な地域に対して、どのように人々の生きる力を育てているか、社会の安定に貢献しているのかを、重層的に議論します。

2. 目的

- 女子および紛争リスクの高い地域に対するスキル教育への開発コンサルタントの取り組みを、具体的に紹介する。
- 「社会で具体的に生きる力」を育むスキル教育の意義を、ソフトスキルや強靱な社会形成の観点から、多面的に検討する。
- 現地との中継も交え、現地的心声を参加者に直接共有する。

¹ <https://unstats.un.org/sdgs/report/2023/goal-08/>（最終アクセス: 2023/7/18）

3. 主な対象者

特にスキル教育に関心のある教育協力実務者、教育関係者、民間企業、学生、開発コンサルタントの仕事に興味のある方

4. 使用言語


日本語（現地との中継はスタッフが逐次通訳をします）

5. 開催方法

ハイブリッド（対面とオンライン）

6. 登壇者（写真付きプロフィール）

<p style="text-align: center;">所属先 元 JICA 国際協力専門員 平和構築 土肥 優子</p>	
<p>20 年以上平和構築支援に従事。これまでフィリピン・ミンダナオ、インドネシア・アチェおよびマルク、ネパール、スーダン、南スーダン、コートジボワール、ソマリア等を含む紛争影響国への支援に参画。最近ではサヘル諸国やエチオピアへの支援準備にも関与。平和構築支援の中でも、主に地方行政支援、コミュニティ再建・社会統合支援、DDR（武装解除・動員解除・社会復帰）支援、技能訓練・職業訓練支援等に従事。2023 年 6 月末まで JICA の国際協力専門員。</p>	
<p style="text-align: center;">インテムコンサルティング株式会社／サヘル諸国に おける若年雇用に係る情報収集・確認調査 社会開発部次長／業務主任 武藤 小枝里（むとう さえり）</p>	
<p>国際基督教大学（ICU）卒業（教育学修士）、政策研究大学院大学（GRIPS）にて国際開発学修士。ケニア難民キャンプのインターン後、ルワンダの復興支援に国連ボランティアとして参加。JICA ジュニア専門員を経て、アフリカ各地で教育、人材育成の専門家として従事。2011 年より、開発コンサルタントとして、コンゴ民の職業訓練アドバイザー、ウガンダ、タンザニアの産業人材育成案件の総括を歴任。</p>	

<p>アイ・シー・ネット株式会社／ Bangladesh 国産業人材のニーズに基づく技術教育改善プロジェクト コンサルタント／副業務主任 池田 悦子（いけだ えつこ）</p>	
<p>九州大学卒業。英国のイーストアングリア大学にて開発学修士を修める。タイの女性の人権団体勤務を経て、2000年より開発コンサルタントとして、主に JICA の様々な技術協力プロジェクトの運営に関わる。TVET 分野では、南アフリカにて技能工へのソフトスキル向上支援、ナイジェリア地方女性センターでの生計向上訓練支援、スーダンでの除隊兵士向け技能訓練などに携わる。</p>	

7. 次第

時間	内容	発表者／司会
16:00-16:10 (10分)	開会挨拶、背景説明・登壇者紹介	加藤一平 (インテム)
16:10-16:25 (15分)	スキル教育-強靱な国・社会づくりの観点から	土肥優子氏 (元 JICA 専門員)
16:25-16:35 (10分)	事例紹介①「サヘル諸国における若年雇用に係る情報収集・確認調査」	武藤小枝里氏 (インテム)
16:35-16:45 (10分)	事例紹介②「Bangladesh 国産業人材のニーズに基づく技術教育改善プロジェクト」	池田悦子氏 (アイ・シー・ネット)
16:45-17:00 (15分)	中継①「サヘル諸国（ブルキナファソ又はニジェールの現地 NGO）」 (カウンターパートとの交流含む)	加藤一平 (インテム)
17:00-17:15 (15分)	中継②「Bangladesh: 女子工科大学生」(ダッカ女子工科短期大学の教員及び卒業生との交流含む)	池田悦子氏 (アイ・シー・ネット)
17:15-17:30 (15分)	質疑応答 (参加者→登壇者)	参加者 加藤一平 (インテム)
17:30-17:40 (10分)	まとめ・総評	杉山竜一 (パデコ)

8. 議論方法

- 事例紹介と質疑応答
- 現地との中継による現地関係者の対話

9. 備考

現地の方とお話してみませんか？

本セッションの中継では、参加者が現地の方に質問する時間を設けます。
現地の方とお話してみたい方、奮ってご参加ください。

以上